

## 県外派遣報告書

審判員名	北島寛臣	所属	高体連
大会名	平成25年度関東高等学校バスケットボール新人大会 兼平成26年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 リハーサル大会		
期間	平成26年2月7日(金)～9日(日)		
会場	船橋アリーナ、八千代市市民会館		
スケジュール			
期日	内容	場所	
2月7日(金)	審判会議	八千代市緑ヶ丘公民館	
2月8日(土)	男女1, 2回戦	男:船橋アリーナ 女:八千代市市民体育館	
2月9日(日)	中止		
会議 講義 内容			
<p>指名審判員の野口氏、山崎氏より「自分をほんの少し変えて」というテーマで講義をしていただいた。 ①気づく力②プレッシャー・不安と戦う力という2点を中心に話をされた。 ゲーム中に気づき、足を使い、判定、判断することが最低の仕事だということ。また、問題が起こる前に気づき、それを増やすことが重要だと話された。そのために足を運び確認する。気づきを増やすために過去の情報を大切にすることはもちろんゲーム中の情報収集が一番大事であるとのことであった。 プレッシャーについては自分以外のことについては受け入れるしかないが、自分についての不安を少なくするために、ルール・マニュアルの理解、技術の理解、フィットネスの準備が必要だということと、経験の中から引き出しを増やしていくことを説明された。 気づきを増やすこととプレッシャーに打ち克つことは現在の自分の課題でもあるため非常に参考になる内容でした。</p>			
実技			
担当試合	期日	平成26年2月8日(土)	女子 2回戦
	対戦カード	明秀日立(茨城) VS 千葉英和(千葉)	主審
	相手審判	金子智則氏(群馬)	
ミーティング内容		主任 三好啓太氏(千葉)	
<p>細かい部分で取り上げなくてはならないものもあったが、ゲームをまとめることは出来ていたとのことであった。自分の中では相手審判との協力という点から判定するエリアの問題等もう少し工夫してもよかった、と感じた。また、講義にもあった『気づき』という部分で、両チームのやろうとしていることや、試合の流れの変化を感じたり、メンバーチェンジ等による変化、試合終盤での進め方に対して自分がどこまで感じる事が出来ていたか疑問である。もっと感じる部分を増やしていきたいと思った。</p>			
全体の感想			
<p>審判会議でのミーティングにあったとおり、気づきを増やすことや、プレッシャーに打ち克つことは自分の今の課題のひとつである。これまでの経験の中で対応できるものについての幅は以前より広がってきてはいるものの、まだまだ引き出しの数が少ないと感じている。また、関東大会等のプレッシャーのかかる試合の中でいかに自分の力を出すのかということもトライしていかなくてはならないと思う。 2回戦という厳しいカードのなかで自分の判定をし続けることもメンタル面の成長が欠かせないと感じた。そのために今回のミーティングであった経験による引き出しを増やすことが毎試合できるようにしていかななくてはならないと思うし、常に足を使って判定し続ける細やかさも更に積んでいきたいと思う。 最後に残念ながら二日目中止という事態にはなりましたが、千葉県協会の方々の配慮には感謝いたします。また、ぜひインターハイを成功させていただきたいと感じました。ありがとうございました。</p>			